

回差点

『ピアノリストの兵隊さん』の本に出ている先生は私の父ではないか」との問い合わせが郷土出版社にあり、文を書いた私に連絡がきました。語り継ぐ戦争絵本シリーズの8冊目に、昭和19年、現在の中野市にあ

った平岡国民

学校の新任教

師となった母

の、2年間の

戦争体験をつ

づりました

が、その後半

部分に青年教

師M先生の号

泣の場面があ

ります。国策を信じて親を

説得し、14歳、15歳の教え

子を満蒙開拓青少年義勇軍

に送ってきた先生です。

敗戦直後のこと、M先生

は教室にこもって号泣し、

子供たちの名を呼び続けま

いません」とのこと。早

速、M先生と生徒61人の写

真を送りました。どの生徒

が義勇軍に行ったのか知る

由もありませんが、下高井

郡の義勇軍227人と満蒙

開拓団高社郷631人がソ

したのです。

長野県は全国一、桁違い

に多くの開拓団を満州に送

りました。私の住む波田は

義勇軍を送り出す興亜教育

の先駆けとなって、昭和14

年には県内一の31人を送出

したことを知りました。ど

れほどの人々がM先生のよ

うな涙を流し、語れない重

荷を負ってきたのでしよ

うか。その荷を引き継ぐのは

私たちです。とりわけ教育

の影響と責任の大きさを思

うのです。

(松本市波田、古畑博子、

64歳)

戦争絵本その後

した。その光景を目の当たりにした母は今も、あのと

きのM先生の声が耳に焼き

ついてるといいます。

M先生の娘さんとの、電

話での感動的な出会いでし

た。「父は何も語りません

でした。当時の写真も見て

連侵攻後にたどった悲劇を、私は本の「あとがき」

に書かずにはいられません

でした。満州(現在の中国

東北部)の野を逃避行の

末、昭和20年8月25日、日

本と故郷を思い、子供を含

む600人余りが集団自決